

2026 年度教育・養護実習出発式

2026 年 5 月 13 日（水）、サクラウム 3 階大講義室 A 及びオンラインにて「2026 年度教育・養護実習出発式」を開催しました。

今年度は 78 名（英語：24 名、商業 1 名、地理歴史：4 名、保健体育：20 名、養護：23 名、情報：6 名）の学生が県内外で教育・養護実習を行います。

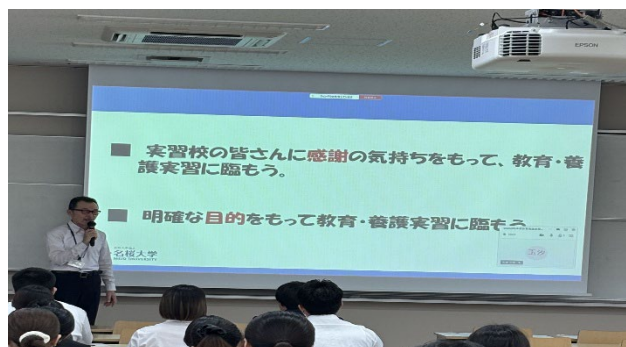
はじめに板山勝樹教員養成支援センター長より、実習に向けた激励と期待の言葉が述べられました。続いて、神田奈津子教員養成支援副センター長から、実習に臨む上での心構えや諸注意について説明が行われました。

各教科別の実習生代表挨拶として、信太美郁さん（国際文化学科 4 年次）、具志駿希さん（国際観光産業学科 4 年次）、魚谷渚さん（国際観光産業学科 4 年次）、小林隼人さん（スポーツ健康学科 4 年次）、大内彩世さん（スポーツ健康学科 4 年次）、高田彩加さん（健康情報学科 4 年次）がそれぞれこれまで学んできたことの集大成として教育・養護実習に臨む決意を語りました。不安を抱えながらも、「現場でしか学べないこと」や「児童・生徒との関わり」を大切に、前向きに意気込みを述べる姿がとても印象的でした。

また、多くの教職員の皆様にもご参加いただき、各教科の代表教員から激励の言葉をいただきました。実際に教育現場での経験を持つ先生方からの説得力あるアドバイスや、これまで積み重ねてきた努力を称える温かい言葉が、実習生たちの背中を押している感じが感じられました。

最後に、未来の教員を育てるため、教育・養護実習を快く受け入れてくださる実習先の関係者の皆様に心より感謝申し上げます。実習を通して多くの学びを得て、一回り成長し、自信に満ちた姿で戻ってくることを期待しています。

教員養成支援センター 係員 大月 朋子



板山勝樹センター長より激励のことば



神田副センター長より心構えと諸注意

各教科の学生代表挨拶



信太美郁さん
(教科：英語)



具志駿希さん
(教科：商業)



魚谷渚さん
(教科：地理歴史)



小林隼人さん
(教科：保健体育)



大内彩世さん
(教科：養護)



高田彩加さん
(教科：情報)

信太 美郁さん (教科：英語)

こんにちは。国際学部国際文化学科板山ゼミの信太美郁です。教科は英語科です。私が教育実習、そして教員になってから大切にしたい姿勢と、心がけることについてお話しします。

私が、大学で学んできた教職課程の授業の中で、最も大事にしたいと感じているのが、「共感的理解」と「受容」の姿勢です。生徒一人ひとりの背景や感じ方は異なり、同じ言葉を聞いても、同じ課題に向き合っても、心に浮かぶ思いは決して同じではありません。教育実習では、この「共感的理解」を具体的な行動として示していきたいと考えています。例えば、授業中に発言できない生徒がいたら、「どうして言えないのか」その理由を私の視点で決めつけたりせず、その子の表情や態度をよく観察し、休み時間にそっと声をかけてみる。英語に苦手意識を持つ生徒には、間違いを恐れずに挑戦できるよう、成功体験を積み重ねられる課題を用意する。こうした小さな積み重ねが、生徒の自己肯定感、自己効力感の獲得へとつながると信じています。

また、「受容」の姿勢とは、「あなたの中にその気持ちが存在していることを私は大切に扱う」という姿勢だと理解しています。教育実習では、生徒の言葉や行動の背景にあるその子なりの理由を想像し、急いで評価したり、正解へ導こうとしたりせず、「どうしたの？」と生徒に寄り添い、互いを尊重する基本姿勢を大切に、まず生徒の話を「聴く」ことから生徒理解を始めたいと思います。

次に、心がけることです。私にとっての普通が、その子にとって当たり前ではないかもしれないということを常に頭に入れて、発言や、授業で扱う題材を考えたいと思っています。特に、人によって家庭環境や生活環境は大きく異なります。例えば、「家族構成」だったり、「家族で旅行にいった思い出」を前提とした発問であっても、それを話しづらいと感じる生徒がいるかもしれません。授業で扱う題材や言葉選びにおいては、「誰かを無意識に排除していないか」という視点を大切に、生徒が安心して自分を表現できる環境づくり、雰囲気づくりを心がけます。

最後になりますが、教育実習は、私にとって教師としてのはじめの一步です。不安もありますが、それ以上に、生徒と出会い、学びあえることへの期待でいっぱいです。これまで大学でご指導してくださった先生方、実習校でお世話になる先生方、そして、共に学んでくれた仲間感謝の気持ちを持って、自分らしく前向きに、実習に臨みたいと思います。

具志 駿希さん (教科：商業)

国際学部、国際観光産業学科、教科商業の具志駿希と申します。

商業教育は、決して簿記だけを学ぶ場ではありません。マーケティングやマネジメント、商品開発からプログラミング、さらには観光ビジネスに至るまで、現代社会を生き抜くための広く実践的な学びが展開されています。

私は普通高校出身であり、正直に申し上げれば、当初は商業高校という場所に馴染みがなく、その教育内容についても無知な状態でしたが、名桜大学での学びを通して多くの知見を得られました。

特に、仲尾次先生には講義の時間を利用した模擬授業や、実際の商業高校への授業見学という貴重な機会

をいただき、実際の教育現場での商業教育を肌で感じました。また、林先生からは、商業高校の歴史的変遷や職業指導の重要性を学び、進学と就職の両面を支える専門高校としての強みを理解することができました。この場をお借りして、深く感謝申し上げます。

これまでの教職課程で、私たちは多くの教育理論を積み上げてきました。しかし、「理論は実践を補強し、実践は理論を具体化する」という言葉の通り、知識は使われて初めて価値を持ちます。

事前準備の中で、幸三先生が仰った「授業を大切に」という言葉が、今も私の心に強く残っています。教科書をなぞるだけの表面的な授業ではなく、黒板やスライド、ワークシートを駆使し、理論に裏打ちされた立体的な授業を展開すること。それこそが、生徒にとっての良い教育を実現する方法だと学んできました。

教育実習の開始まで、私たちに残された時間は限られています。しかし、まだ準備できることはあります。これまで学んできた教科指導法での専門的知識を今一度整理し、万全の状態に立てるよう、研鑽を積んでいきましょう。

また、学んできた理論という武器を持ち、目の前の生徒一人ひとりと向き合う実践の場へ。実習をやり多きものにし、成功させるために、共に精一杯取り組んでいきましょう。

魚谷 渚さん (教科：地理歴史)

教育実習を目前に控え、教員としての第一歩を踏み出すのだという実感とともに、緊張や不安も感じていますが、実際の教育現場に関われることを楽しみにしています。今回の教育実習では、知識や技術といった教師として必要な基礎的な実践力を身につけるとともに、生徒との関わり方や信頼関係の築き方など、現場だからこそ得られる学びを積極的に吸収したいと考えています。

私の目標は、生徒の声に耳を傾け、その気持ちに寄り添うとともに、学ぶことの楽しさを伝えられる教員になることです。そのため、教育実習では、先生方の生徒との関わり方、コミュニケーションの取り方を学びたいと考えています。特に、授業中だけでなく休み時間、放課後などの日常的な関わりにも目を向け、信頼関係の築き方を学んでいきたいです。また、授業づくりにおいては、地理歴史を通して、現代社会の課題や世界とのつながりについて考える力を育て、生徒が自らの生活や将来と結びつけて学びを深められる授業を実践したいと考えています。そのために、具体的な指導方法や授業づくりについて学んでいきたいです。常に生徒の反応を大切にしながら、分かりやすく興味を引く授業づくりを心がけたいと思います。

実習期間中は、課題に直面することもあると思いますが、実践、振り返り、改善のサイクルを意識し、より良い授業や関わりができるよう取り組みます。そして、私たちを受け入れてくださる実習先の方々、これまで支えてくださった先生方への感謝の気持ちを忘れず、教員としての姿勢を高めていきたいです。

このような貴重な機会を通して、多くの学びを自分自身の成長につなげられるよう、主体的に取り組んでいきましょう。

小林 隼人さん (教科：保健体育)

教育実習を目前に控え、期待とともに緊張や不安も感じています。しかし、それ以上に、学校現場で生徒たちと関わり、これまで学んできたことを実際の教育の場で試すことができることを、とても楽しみにしています。

私たちは、体育の授業や部活動、学校生活のさまざまな場面を通して、生徒の心と体の成長に関わる教科だと思っています。運動が得意な生徒だけでなく、苦手意識を持つ生徒もいます。その中で、一人ひとりが安心して挑戦できる雰囲気をつくり、できた喜びや仲間と協力する楽しさを感じられる授業を目指したいと考えています。

また、保健体育の授業では、安全への配慮や、生徒の体調・表情の変化に気づくことも大切です。実習生であっても、生徒から見れば一人の先生です。その自覚を持ち、言葉遣いや行動、授業中の立ち振る舞いなど、一つ一つに責任を持って取り組んでいきたいと思っています。

教育実習では、うまくいかないことや、自分の未熟さを感じる場面も多くあると思います。しかし、その一つ一つを学びの機会として受け止め、先生方からのご指導や生徒との関わりを通して、少しでも成長できるよう努力していきたいです。失敗を恐れるのではなく、素直に学び、前向きに挑戦する姿勢を大切にしたいと思います。

私たちはこれまで、先生方のご指導のもと、教育実習に向けて準備を重ねてきました。また、同じ教職課程の仲間と支え合いながら、ここまで進んでくることができました。実習先はそれぞれ異なりますが、名桜大学の実習生として、そして保健体育科の代表としての自覚を持ち、感謝の気持ちを忘れずに実習に臨みたいと思います。

大内 彩世さん（教科：養護）

私は地元北海道で、母校実習をさせていただきます。今年の夏頃に母校での実習が決まり、事前訪問や養護実習事前指導、先輩方の実習報告会などを通して、少しずつ実習への準備を進めてきました。

そして本日、出発式を迎え、いよいよ自分たちの実習が始まるのだと実感しています。

少し自分の弱い部分をお話しすると、今、こうして代表として挨拶をさせていただいていますが、私は決して自信があるタイプではなく、心配性な性格です。また、とても緊張しやすく、今も心臓が口から出てきそうなくらい緊張しています。

そんな自分が3週間の実習を乗り越えられるのか、正直、心細さを感じることもあります。しかし、そんな時こそ、これまで歩んできた道や積み重ねてきた努力を振り返ろうと思います。

私たち養護教諭組は、2年次から看護学や看護基礎技術を学び、夜遅くまで包帯や三角巾を巻き合ったり、多くの時間をかけて授業づくりや資料作成に取り組んだりしてきました。また、3年次には2週間の病院実習や、養護教諭の学びの集大成ともいわれる学校救急看護学の授業など、大変で苦しいと感じることも多くありましたが、その度に仲間と支え合いながら乗り越えてきました。だからこそ、今回の実習も、きっとそれぞれの場所で乗り越えていけると信じています。

せっかくの貴重な3週間です。何を学びたいのか目標を明確にし、自分自身の未熟な部分と向き合いながら、理想とする養護教諭像に近づけるよう、学びを深めていきたいと思っています。

また、実習校が大学からの依頼を受け入れてくださっていることへの感謝を忘れず、常に謙虚な姿勢で、しかし学びには貪欲に取り組み、実習生一同にとって実りある実習となることを願っています。

最後に、養護教諭を目指す学生として皆さんに伝えたいことは、実習中は生活リズムを整え、しっかりと睡眠と栄養を取ることです。心身の健康や余裕が、児童生徒への丁寧な対応につながることを意識し、自分自身の健康を大切にしながら、充実した実習にしていきたいと思います！

高田 彩加さん（教科：情報）

いよいよ待ちに待った教育実習が始まります。これまで課題や模擬授業の準備など思うようにいかず大変だったことや辛かったこともありましたが、情報科の6人の仲間と一緒に支え合って乗り越えてきました。振り返ってみると楽しくもあり自分たちがそれぞれ成長することができたとても大切な思い出でもあります。期待と同時に大きな不安もありますが、これまで大学で学んできたことを生かすことのできる大変貴重な機会としてできる限りの準備を行い、実習では1日1日を大切に過ごしていきたいです。

私たちは、先生方から多くのことを学ばせていただく立場であることを忘れずに常に謙虚な姿勢で実習に臨みたいです。一方で、教育に携わる者でもあるので、自分たちの言動の1つ1つが生徒の人生に影響を与える可能性があるという自覚と責任も持って誠実に取り組んでいきたいです。

実習期間は長いようであつという間だと思いますが、沢山のことを吸収できる実りあるものにしていきましょう！